

放火させない!



京都市内の昨年(令和2年)の火災件数は204件でした。
さて、火災原因で最も多かったのは何だと思いますか?

実は**放火**(疑いを含む)です。過去、京都市においても、放火による火災は40年連続(昭和51年～平成27年)で最も多い火災原因でした。

放火による火災から大切な命や財産を守るため、
放火されない環境づくりに取り組みましょう。

1. 建物の周りなどに、燃えやすい物を置かないようにしましょう。
2. 門扉や物置にはしっかり鍵をかけて、不審者の侵入を防ぎましょう。
3. 夜間には屋外の照明を点灯するなど、明るくしましょう。
4. センサーライトなど、放火火災の防止に有効な機器を設置しましょう。
5. 放火火災を防ぐための地域活動に積極的に参加しましょう。
6. その他、様々な放火防止対策を進めましょう。

問合せ 山科消防署 (☎592-9755)

山科消防団に2年連続で 総務大臣感謝状が贈呈されました

3月31日、山科消防団に総務大臣から「令和2年度総務大臣感謝状」が贈呈されました。

これは、全国的に減少傾向である消防団員の確保に向けた積極的な取組と、前年度と比較して消防団員数が増加したことを評価されたもので、令和元年度に続き2年連続の贈呈となります。

山科消防団の活動は、山科区ならではの「地域力・つながり」の賜物です。

今後も「安心・安全のまち山科」を目指し、地域防災体制の充実や地域の安心・安全の推進に全力で取り組んでまいります!

問合せ 山科消防署 (☎592-9755)



子どもの非行・犯罪被害を 防ぎましょう!

ひとつでも当てはまれば、SOSのサイン
かもしれません!

夏休みは、子どもたちが様々な体験をします。
近年、子どもたちがインターネットやSNSを通じて犯罪に巻き込まれるケースが増えています。
子どもたちを守るために変化やサインを見落とさないようにしましょう。



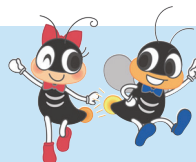
	チェック項目	チェック
生活の変化	夜の外出や外泊が多くなった	
	外出時のことを話さなくなった	
	これまでとは違うタイプの友達と付き合い始めた	
	理由なく学校を欠席・早退・遅刻することが多くなった	
言動の変化	言葉づかいが悪くなった	
	暴力的なことをするようになった	
	態度に落ち着きがなくなった	
服装・持ち物の変化	見慣れない持ち物が増えた	
	髪型や服装が派手になった	
	だらしない恰好をするなど服装が乱れてきた	
	高級ブランド品など年齢にそぐわない物品を持っている	

少年の悩みや非行・犯罪被害などの相談は、一人で悩まず、
ヤングテレホン: ☎075-551-7500 (24時間受付)にご相談ください。

※メール相談は府警ホームページから

問合せ 山科警察署 (☎575-0110)

災害に備えて飲料水の備蓄を!!



災害用備蓄飲料水「京のがやき 疏水物語」が
区役所への来所によりお申込みいただけます!
京都市内であれば、配達料無料でご家庭までお届けします!

大雨や台風などの災害に備えて、飲料水の備蓄をお願いします。(1人1日3リットル、3日分以上の飲料水の備蓄が目安です。)

「京のがやき 疏水物語」1ケースでおおよそ4人家族1日分の量に相当する飲料水を確保することができます。ぜひご利用ください。

金額 2,400円/1ケース24本入り(税込・市内配達料無料)

申込方法 ●山科区役所 2階地域力推進室(防災担当)への来所
●上下水道局本庁舎1階 お客さま窓口サービスコーナーへの電話、FAX又は来所

問合せ 市上下水道局お客さま窓口サービスコーナー
(☎672-7770、FAX672-7773)



問合せ 区総務・防災担当 (☎592-3066)

(京都市まちづくりアドバイザー 谷亮治)

次回「にじいろキッチン」は、7月17日(土)午前11時30分から。食材やバザーに出す不用品に加え、場を一緒に作ってくれる仲間も募集中。「にじいろキッチン」のウェブサイトで問合せできますので、ご関心を持たれた方は、ぜひご連絡ください。



ウェブサイトは
こちらから

「私たちの活動はお寺に地域の人の人たちの居場所を作ること。居場所は、やり続けたい居場所になります。交流がしづらい今だからこそ、やり続けなきゃいけないと思っています」

2020年には、新型コロナウイルス感染症が流行し、室内での食事の提供が難しい状況が生まれました。そのような状況でも、活動を中止するのではなく、仲間達と共に継続していく方法を考え、テイクアウトに切り替えて活動しています。その心意気を田中さんはこう語ります。

「山科別院という校もイチョウも美しく素晴らしい場所が、子ども達の笑顔があふれる、ふれあいの場所になってほしい」という、同じ思いを持ったボーイスカウトの仲間達と共に、山科別院が地域の方の憩いの場となることを目的として「にじいろキッチン」を始めました。このような目的が背景にあるので、「にじいろキッチン」は、子ども食堂と名乗ってはいないものの、将来的には子ども食堂にとどまらず、世代を超えて交流できる「地域コミュニティの場」としていきたいそうです。また、境内で誰もが好みに過ごすことができる「にじいろカフェ」、不用品の交換と活用を通じて交流する「チャリティバザー」を併せて開催することで、より幅広い交流ができる場づくりを目指しています。

田中さんは、お子さんと共に山科別院を拠点とするボーイスカウトの活動に20年以上参加してきたことで、この場所に強い愛着を感じるようになったそうです。しかし、かつては「別院の広場が子どもで埋め尽くされるくらい」賑わっていたボーイスカウトの活動も、近年は少子化の影響もあり参加者が減ってきています。またご近所にお住まいの人にも、お寺という場所に敷居の高さを感じ、境内に入ることがない人も少なくないそうです。

にじいろキッチン代表田中純子さんは、本願寺山科別院(以下、山科別院)で、毎月一回「にじいろキッチン」という子ども食堂の取組を実施しています。この食堂は子供200円、大人300円という割安な値段でおいしい食事をしみつつ、交流が深められる場として、多くの方々に親しまれています。



山科別院で地域に開かれた
居場所を作りたい! にじいろキッチン

第72回 みんなで「第2期山科区基本計画」に取り組もう!
連載 区民活動きずなリレー